

施策評価調書(4年度実績)

				施策コード		II-1-(2)			
政策体系	施策名	マーケットインの <sup>もの</sup> 商品づくりの加速	所管部局名	農林水産部				長期総合計画頁	79
	政策名	挑戦と努力が報われる農林水産業の実現	関係部局名	農林水産部					

【I. 主な取り組み】

取組No.	①	②	③	④
取組項目	マーケットニーズに対応した 流通・販売力の強化	新たなマーケットの創造	産地間競争に勝ち抜く 生産力の強化	新たな需要を獲得する 戦略的な海外展開

【II. 目標指標】

指 標	関連する 取組No.	基準値		4年度			6年度	目標達成度(%)										
		年度	基準値	目標値	実績値	達成度	目標値	25	50	75	100	125						
i 農林水産業による創出額のうち 戦略品目の産出額(億円)		H25	821	1,057 (R3)	976 (R3)	92.3%	1,169 (R5)											
	農 業	①②③	H25	442	586 (R3)	500 (R3)	85.3%	660 (R5)										
	林 業	①②③	H25	169	212 (R3)	234 (R3)	110.4%	230 (R5)										
	水産業	①②③	H25	210	259 (R3)	242 (R3)	93.4%	279 (R5)										
ii 農林水産物輸出額(億円)	④	H26	15	42.4	43.3	102.1%	57											

【III. 指標による評価】

評価	理 由 等		平均評価
i 概ね 達成	<p>農業は、コロナ禍による巣ごもり需要が落ち着いたため、野菜の単価が総じて減少したものの、畜産では、外食需要の回復に伴い、肥育農家の購買意欲が増加し、子牛価格の上昇と増頭が進んだことにより、農業全体の産出額は500億円となり、前年度比+4.0%、達成度は85.3%となった。</p> <p>林業は、米国での住宅需要の高まりや輸送コンテナ不足等によるウッドショックが発生したことから、木材価格が上昇し、素材生産量は過去最高を記録したことにより、林業全体の産出額は234億円となり、前年度比+42.7%、達成度は110.4%となった。</p> <p>水産業は、モジャコ不漁による養殖ブリ類の単価向上により、水産業全体の産出額は242億円となり、前年度比+16.9%、達成度は93.4%となった。(農林水産業産出額の国の公表が約1年後となることから、R4年度の目標値・実績値にはR3年の数値を記載している。)</p>		達成
ii 達成	<p>輸出額は、コロナ禍からの需要が回復したため、牛肉や養殖クロマグロ等の輸出拡大により、過去最高の43.3億円(対前年比7.4億円(+20.5%))となり、目標値を上回った。</p>		

#### 【IV. 指標以外の観点からの評価】

取組 No.	指標以外の観点からの評価
①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ感染症の状況を踏まえ、主要出荷先でのトップアプローチを再開するとともに、県内外での販促活動やPR活動を積極的に実施した。</li> <li>・短期集中県域支援品目については、販路開拓アドバイザーによる新規販売先の開拓や、大手食品メーカーと連携したプレゼントキャンペーンなどを実施した。</li> <li>・「うまみだけ」の展示商談会への参加やホテル等と連携した食べる機会の創出、雑誌やSNSを活用した魅力の発信により、目標を上回る149店舗のうまみだけ取扱店舗を確保した。</li> <li>・新たに創設した「おおいたの魚パートナーシップ飲食店」では、関東を中心に展開する寿司チェーン店とパートナーシップを締結した。</li> </ul>
②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・付加価値額の向上に向けた6次産業化を推進するため、オンライン商談会を開催して商品の販路開拓を支援したほか、商品開発から販路開拓まで体系的な知識を修得できる研修会を開催し、人材の育成を進めた。</li> <li>・建築物木材利用促進協定を締結し、民間事業者(2者)による施設の木造化・木質化が図られた。</li> </ul>
③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県域出荷組織「おおいた有機野菜等生産出荷体制構築会議」の販売部門として、新たに「おおいた有機野菜等販路流通組織設立準備室」がR4.4に設立され、販路拡大に向けた商談の実施や物流網の構築、県外への試験的な共同出荷等を実施した。</li> <li>・トマトやぶどう等の産地拡大推進品目の栽培施設や基盤整備等により、産地拡大推進品目の栽培面積は41.1ha増加した。</li> </ul>
④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外の市場を取り込み農林水産業者の所得向上を図るため、現地商社等と連携した販促活動や商談等に取り組んだ結果、輸出延べ品目数で57品目と目標を達成した。</li> </ul>

#### 【V. 施策を構成する主要事業】

取組 No.	事業名(4年度事業)	事務事業評価	
		成果指標の達成率(%)	掲載頁
①	The・おおいたブランド流通販売戦略推進事業	108.3	172
	しいたけ消費拡大対策事業	91.7	173
	県産水産物流通拡大推進事業	100.0	174
②	6次産業化サポート体制整備事業	133.3	174
	木造建築物等建設促進総合対策事業	200.0	175
③	持続可能な豊かな有機産地等活性化事業	102.1	175
	おおいた園芸産地づくり支援事業	96.9	177
④	農林水産物輸出需要開拓事業	102.1	181

#### 【VI. 施策に対する意見・提言】

<p>○第6回大分県農業総合戦略会議(R5.3)</p> <p>・大分県農業総合戦略会議で取りまとめた行動宣言の着実な実行に向けて、具体的な取り組みを行っているが、今後は、さらに取り組みを加速させる必要がある。</p>
---

#### 【VII. 総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	施策展開の具体的内容
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業総合戦略会議での「行動宣言」を踏まえ、伸び代がある園芸品目の生産拡大や肉用牛を中心とした畜産振興を進め、農業の成長産業化に取り組む。</li> <li>・短期集中県域支援品目への重点支援により、ボトルネックの解消に取り組み、栽培面積拡大と産出額向上を図る。</li> <li>・乾しいたけの新ブランド「うまみだけ」、かぼす養殖魚などのブランド化を図るとともに、生産・流通拡大を進める。</li> <li>・市町村単位での有機農業者の組織化を進め、土壌診断に基づく土作り等生産力向上に向けた支援を行うとともに、県域での有機野菜生産出荷体制の強化や学校給食への食材利用拡大等の流通販売対策を行い、有機農業の拡大を図る。</li> <li>・輸出先国のニーズに対応した産地づくりやJETRO等と連携した新たな販路開拓など、輸出拡大に向けた戦略的な海外展開を進める。</li> </ul>